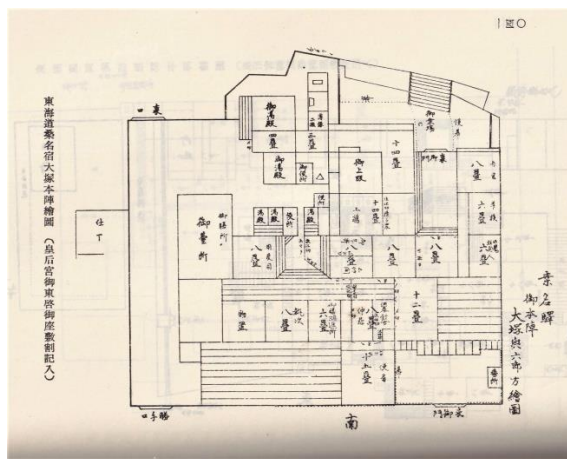


## 皇后・皇太后の行啓

郷土史家 西羽 晃

明治元年（1868）3月に天皇が京都から東京へ移られ、首都が東京になったので、京都の皇族方や公卿たちも次々と東海道を東京へ向かった。明治2年10月5日、皇后（のちの昭憲皇太后）は京都を出発し、8日に四日市の黒川本陣で宿泊。9日に桑名の大塚本陣で宿泊。（実は9月28日に大塚本陣の主人が亡くなっていたが、穢れのあることを隠して、仏眼院でこっそりと密葬していた）10月10日に皇后は桑名から前ヶ須新田へ渡り、佐屋を回って熱田へ向われた。



皇后が泊まれた大塚本陣の部屋割り図  
（『東海道宿駅と其の本陣の研究』より）

明治4年11月14日に佐屋路は廃止となり、翌日の15日から前ヶ須新道が開かれた。新道は熱田からほぼ直線で南下する短距離の道で、今の国道一号線のやや東である。途中の福田と前ヶ須新田が宿場となり、前ヶ須新田が渡船場となった。桑名～前ヶ須新田の渡しは「ふたつやの渡し」と呼ばれ、その距離は1里20町あり、「一里の渡し」とも言われた。この「ふたつやの渡し」は、昭和8年（1933）に尾張大橋が完成するまで国道として使われるようになった。今も尾張大橋の近くに「ふたつやの渡」と書いた石碑（写真）が建っているが、

現在は川岸とはやや離れているが、当時はこの碑のあたりが川岸だったようだ。



弥富市前ヶ須の「ふたつやの渡」碑

明治5年3月26日に英昭皇太后は桑名の大塚本陣で宿泊し、27日に前ヶ須新田へ渡られた。佐屋路は前年に廃止になっていたが、新しい前ヶ須新道は未完成だったので、従来通りに佐屋回りで熱田へ向かわれた。前ヶ須新道が完成するのは同年4月に入ってからである。

明治9（1876）年11月30日に皇后（のちの昭憲皇太后）は東京から京都へ行く際に、午前6時30分に熱田発。中島新田・久田留兵衛方、西福田・服部宅右衛門方、西舘村・志水太十郎方にて小休み。前ヶ須・佐藤七三郎方にて昼食。その後船にて桑名へ。桑名では大塚本陣の建物は明治8年に岩間久八に売られていたので、岩間久八方に泊った。

明治10年1月22日に英照皇太后は東京から京都へ行く際に、午前7時熱田発。中島新田・久田方、西福田・服部治重方、西舘村・志水多十郎方にて小休み。午後0時35分、前ヶ須・佐藤七三郎方に到着して昼食。午後1時45分発の船にて桑名へ。桑名では岩間久八（旧大塚本陣）方に泊っている。東京への帰途の同年5月10日にも桑名の岩間久八方に泊っているが、その後に旧大塚本陣の建物は移築されて、現在の四日市市川北町・法従寺に現存している。